

CONTENTS

秋季企画展・記念講演会

武雄×津山交流展示「日本を動かす!-武雄の蘭学-」……2・3

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム……4

NEWS FILE「友の会史跡見学会」……5

冬季企画展「津山藩の英学事始」……6

資料館展示品から……7

INFORMATION (催し物のご案内)……8

洋学 資料館

No. 25

March, 2020



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

津山藩の料理人の長男として生まれた津田真道^{つだまある}は、22歳で江戸へ出て箕作阮甫^{みづくりげんぽ}や伊東玄朴^{いとうげんぼく}に学び、34歳で西岡と共にオランダへ留学。法学や政治学、統計学を学び、帰国後わが国最初の西洋法律書「泰西国法論^{たいせいこくほつろん}」を刊行して、近代法学の導入に大きな役割を果たしました。真道が幼少期を過ごした小入道と云う路地にたたずむと、脱藩覚悟で江戸へ向かった真道の心中が、少しだけ分かるような気がしてくるのです。

(津山市上之町) 写真:下山純正氏



展示解説中の川副先生

日本人の手で作られた最初の西洋式大砲「モルチール砲」は、会期中たくさんの人の目を引き付けていました。

川副先生は、佐賀藩が海外貿易の窓口である長崎の警備を担当し、イギリス船の長崎港侵入事件を経験して、海防に対する意識が強かったことなど、歴史的な背景を踏まえて、なぜ武雄で蘭学が発展したかについて解説されました。ご講演後にはホールから企画展示室へ移動して、実際に資料を見ながら展示解説もしていただき、参加された方々は熱心にお話に聞き入っていました。会期中は多くの方が観覧され、「これほどの貴重な資料が、まとまって残されていることが凄いなと思った」という感想が多く寄せられました。

また、11月16日(土)から12月15日(日)には、武雄市図書館・歴史資料館の特別企画展「津山×武雄交流展 蘭学の競演」が、同館の蘭学・企画展示室で開催されました。同時代を生きた鍋島茂義、宇田川榕菴、箕作阮甫を中心にして、津山と武雄、それぞれの洋学への取り組みが紹介されました。

最後になりましたが、この交流展示の開催にあたって、武雄市教育委員会をはじめ、多くの方々にお力添えを賜りました。ご協力いただきました関係各位に改めて厚くお礼申し上げます。



武雄市図書館・歴史資料館での特別企画展のようす

- ▲武雄伝来のモルチール砲と宇田川榕菴旧蔵の貼込帳にあるモルチール砲の図。
- ▼箕作阮甫が長崎出張の帰路、武雄で温泉に入ったことも紹介されました。
- ◀12月1日(日)当館の下山元館長による特別講演「津山の誇る洋学のはなし」が開催されました。

武雄と津山、遠く離れた二つの地は、どちらも江戸時代に蘭学(洋学)が盛んに研究されたという共通の歴史をもちます。それを機縁に、秋季企画展は、武雄市と津山市で相互に資料を貸借・展示する交流展示として開催しました。

佐賀県の西部に位置する武雄は、江戸時代、佐賀藩の請役(家老)などを務めた武雄鍋島家によって治められていました。武雄領の第28代領主鍋島茂義は、積極的に西洋の文物を収集して蘭学研究を推進し、西洋砲術の習得、大砲製造、蒸気船建造などに取り組みました。佐賀藩主鍋島直正は、武雄の行った大砲試射を見て藩に西洋砲術を導入することを決意し、蘭学を藩政に取り入れて急速な近代化に成功することとなります。武雄領で培われた科学技術力は佐賀藩を動かし、さらに明治維新や戊辰戦争においても発揮されて、まさに「日本を動かす」力となったのです。

武雄には、茂義が収集した西洋の文物や蘭学研究に関する2200点を超える資料が伝来しており、日本における西洋の科学技術の受容に関係する貴重な資料として、平成26年に一括して国指定重要文化財になっています。本展では、重要文化財を含む41点の資料を武雄市から借用し、武雄の蘭学について紹介しました。

開催日の10月5日(土)には、武雄市図書館・歴史資料館 歴史資料専門官の川副義敦先生を講師にお迎えし「佐賀藩武雄領の洋学とその背景」と題して、記念講演会を開催しました。

秋季企画展・記念講演会

武雄×津山 交流展示

日本を動かす！

「武雄の蘭学」

■会期：令和元年10月5日(土)～11月4日(月・休)

顕微鏡・雪/結晶煎茶碗
武雄鍋島家資料 武雄市蔵



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

フランス近代史研究の今・むかし

基調講演「フランス革命はどのように想起されてきたのか」
東京大学大学院人文社会系研究科准教授 長井 伸仁 先生
対談「フランス近代史研究の今とむかし」
東京大学大学院人文社会系研究科准教授 長井 伸仁 先生
東洋大学文学部史学科教授 岩下 哲典 先生

主催：公益財団法人上廣倫理財団・津山市教育委員会／後援：文化庁・岡山県教育委員会

9月8日(日)、公益財団法人上廣倫理財団の支援により、9回目となる歴史文化フォーラムを開催しました。今回は、箕作阮甫の孫で、フランス革命の研究に精魂を傾けた箕作元八の没後100年にあわせ、「フランス近代史研究の今・むかし」のテーマで基調講演と対談を行いました。

基調講演では、長井伸仁先生に「フランス革命はどのように想起されてきたのか」と題してお話しいただきました。まず先生は、元八がフランスへ留学した明治期には、革命は過去のことではなく、現在性のある出来事として認識されていたと説明されました。そのうえで、革命には政治・社会・文化の三つの変革の側面があり、実際の革命では、情報伝達の遅れや「地域語」の存在が重大な問題となり、同じ国内で生活していても、皆一様に革命を把握していたわけではなかったことなどを解説されました。

さらに先生は、元八の留学中の日記『巖梅日記』をもとに、革命を生きた人々が何を感じたのかという「革命的精神」に元八が関心を寄せていたことに言及され、今から一世紀以上も前に「政治文化研究」への眼差しを持っていた元八を高く評価されていました。

続いて行われた対談は、長井先生と岩下哲典先生が参加者から寄せられた質問に答える形で進められました。参加された方々は、時折相槌をうちながら熱心にお話に参加していました。

NEWS FILE 日本英学史学会 中国・四国支部研究例会開催

12月14日(土)、日本英学史学会中国・四国支部の研究例会(津山例会)を当館GENPOホールで開催しました。

竹中龍範会長の挨拶に続いて、山田克惟さんによる「『英和対訳袖珍辞書』復刻に向けて―箕作貞一郎との関わりを中心に―」、当館学芸員による「幕末から明治初年の津山における英語学習」の2題の研究報告を行いました。当日は一般公開され、会員の方のほか市民の皆さんも参加されました。



オムニバス講演会開催

1月26日(日)、9回目となるオムニバス講演会を開催しました。今回は、「洋学あれこれ Part II」をメインテーマにして、江戸初期の外交政策をまとめた「日本とオランダ、関係のはじまり」(仁木)、榕菴の温泉分析について研究した「温泉水を化学する」(近都)、宇田川準一の修業についての「江戸遊学の決算書」(田中)という個別テーマで研究報告をしました。

資料館へ指定寄付

令和元年度中、古田直樹さん、近光利樹さん、大谷裕子さんから指定寄付をいただきました。ご芳志に厚くお礼申し上げます。いただいたご寄付は、歴史資料の購入費に充て、展示や調査研究などに有効に活用して参ります。



友の会 第32回友の会史跡見学会 シストマ発見者石坂堅壮のふるさと

三日月に残る史跡を訪ねて

11月17日(日)、友の会の史跡見学会を実施しました。今回は、シボルト門人石坂桑亀の養子で、ジストマの発見者として知られる医師石坂堅壮の故郷三日月に残る史跡を中心にめぐりました。

三日月は、津山藩森家の改易後、分家の森長俊が移封した、津山とは縁の深い地です。最初に長俊が造営した陣屋跡を訪ねました。陣屋跡は、現在三日月藩乃井野陣屋館として整備されていて、出土した陣屋の瓦や鎧甲などが展示されています。陣屋近くには表門が



三日月藩乃井野陣屋館で記念撮影

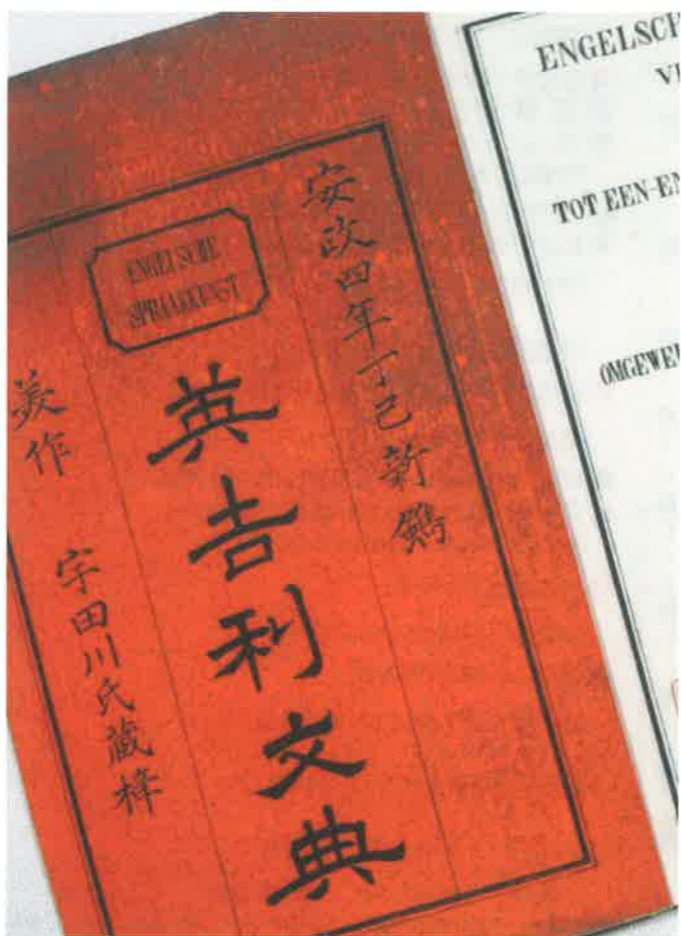
移築復元されていて、旧藩士の屋敷が残る町並みとともに趣のある風情を醸し出しています。続いて堅壮の関係史跡を2箇所訪ねました。堅壮は、三日月藩士の船曳五七郎の次男として生まれ、藩の儒医船曳西河に学んだと伝えられます。現在公園になっている船曳文陽・西河屋敷跡を車中から見学し、続いて濟露山高蔵寺を訪ね、藩主森家の御霊屋、文陽・西河の墓所にお参りしてその業績を偲びました。

昼食後は美作市まで移動し、平沼騏一郎揮毫の安東鐵馬顕彰碑と鐵馬の両親の墓所を見学・参拝しました。儒学者の池田草庵らに学んだ鐵馬は、尊王攘夷論に傾倒し池田屋事件や禁門の変に加わってわずか22歳で戦死したのです。参加者からは、津山近隣の三日月にこのような素晴らしい史跡があることは知らなかったもので、参加して良かった、との感想をいただきました。

資料館展示品から

オランダ語で学ぶ英語

イギリスぶんてん
『英吉利文典』



仁木家に伝わる『英吉利文典』



冬季企画展

津山藩の英学事始

■会期…令和元年11月23日(土)～令和2年2月16日(日)

江戸時代、いわゆる「鎖国」政策のもとで、西洋の学術はオランダ語を介してもたらされ、オランダ(阿蘭陀・和蘭)の学問「蘭学」と呼ばれました。しかし、江戸時代も終わりに近づくこと、日本を取り巻く海外情勢が大きく変化し、外国船が相次いで日本近海に來航。1808(文化5)年にはイギリス船が長崎港へ侵入するフェートン号事件が起こります。さらに1853(嘉永6)年のペリー來航から開国へと向かっていく中で、オランダ語に代って英語の必要性が高まり、英語によって西洋の学術を学ぶ「英学」が興ります。

本展では、こうした変化の中で、津山藩の洋学者たちがどのように英語を受容したのか、それぞれの英学事始を紹介しました。

津山藩の洋学者で、いち早く英学に取り組んだのは宇田川榕菴でした。榕菴は阿蘭陀通詞出身の馬場佐十郎に語学を学び、いくつかの研究稿本に英単語の書付や発音についての考察を残しました。

ペリー來航時には、箕作阮甫がオランダ語訳されたアメリカ国書の翻訳に従事。養子の秋坪は藩命で黒船を偵察し、上陸したアメリカ兵との接触を図って名刺と紙巻タバコを貰っています。後に秋坪は独学で英語を習得し、明治初年には英学塾三又学舎を開きました。

また、阮甫を補佐してアメリカ国書の翻訳にあたった宇田川興齋は、英語の文法書『英吉利文典』を刊行。阮甫の孫の麟祥は、阮甫の薦めでジョン万次郎に英語を学び、幕府の洋書調所で『英和对訳袖珍辞書』の編纂に加わりました。海外情勢に通じていた津山藩の洋学者たちは、いち早く英学へ転向し、その後の英語導入に業績を残したのでした。

観覧された方々からは、オランダ語ができる洋学者でも、新しい言語を習得することは大変だったのではないかと、洋学者たちの研究熱心さに感嘆する声が多く寄せられました。

ペリー來航は、開国への契機となっただけでなく、言葉の面でも大きな変革をもたらしました。その頃すでに阿蘭陀通詞ら、一部の人たちの間では英語の学習が始められていましたが、黒船來航以降はその必要性が広く認識されるようになり、英語の辞書や文法書が相次いで刊行されました。

津山藩医の宇田川興齋も、1857(安政4)年に英語の文法書『英吉利文典』を刊行しています。これは1853年にオランダのアムステルダムで刊行された英語の教科書を、オランダ語の原文のまま翻刻したものです。

興齋は、箕作阮甫を補佐してアメリカ国書の翻訳にあたり、また、藩命で箕作秋坪とともに黒船を偵察しました。外交交渉の最前線に立ち会う中で、英語の必要を早くから実感していたと考えられます。語学を中心にオランダ語から英語へ転換していく中で、いち早く本書を刊行して洋学者たちの学習をリードしたのでした。

写真の『英吉利文典』は、村山村(現在の津山市初保)の医師仁木永祐の旧蔵書です。永祐は1848(嘉永元)年から4年間、江戸へ遊学して興齋に学びました。

興齋が1863(文久3)年から1872

(明治5)年までの8年半、藩命で津山へ移住した際には、永祐は興齋のもとに足繁く通って旧交を温めたと伝えられます。本書の奥書には「宇田(川)先生の塾でこれを習う」とあります。刊行時期から考えると、永祐が興齋から習ったのは江戸ではなく、津山でのことと分かります。

仁木家には、このほかにも開成所版『英吉利文典』や『英和对訳袖珍辞書』などが伝来していて、幕末から明治期にかけて津山の医家においても英語が学ばれていた様子を教えてくれています。

文…学芸員 田中美穂

INFORMATION

令和2年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「資料が秘めた物語Ⅱ」 19 第75回文化講演会 「日本石鹼製造事始め～日本における石鹼製造業の勃興と発展」 講師：花王ミュージアム館長 引地 聡 先生 19 友の会総会 (休館日：6・13・20・27・30日) 	3/7～
5月	(休館日：7・8・11・18・25日)	資料が秘めた物語Ⅱ
6月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会研修バス旅行 (休館日：1・8・15・22・29日) 	～6/21
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「箕作先生の水族館(仮)」 25 親子でヒンデローベン作品づくり 26 ヒンデローベン絵付け体験教室 (休館日：6・13・20・27・28日) 	7/4～
8月	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の化学書からの再現実験教室 自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：3・11・12・17・24・31日) 	箕作先生の水族館(仮)
9月	(休館日：7・14・23・24・28日)	～8/22
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「シーボルトと岡山の洋学者たち」 (休館日：5・12・19・26日) 	10/10～ シーボルトと 岡山の洋学者たち
11月	<ul style="list-style-type: none"> 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 企画展「仁木永祐と靑山巒をめぐる人々」 (休館日：2・4・9・16・24・25・30日) 	～11/8
12月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：7・14・21・28～31日) 	11/28～ 仁木永祐と靑山巒を めぐる人々
1月	<ul style="list-style-type: none"> 職員による研究報告会 (休館日：1～4・12・13・18・25日) 	～2/21
2月	(休館日：1・8・12・15・22・24日)	
3月	(休館日：1・8・15・22・23・29日)	

■ 企画展 ■ 催し物 ■ 講演会 ■ 友の会

※新型コロナウイルス感染症の影響により、催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。



会期：3月7日(土)～6月21日(日)

・・・刊行物のお知らせ・・・

■ 洋学研究誌『一滴』第27号を刊行します

目次

- ・緒方洪庵と丸尾玄俊—津山種痘館の成立をめぐる—
…浅井允晶
- ・宇田川榕菴稿『和蘭邦訳洋楽入門』の原典解明と
ニュートンによる音階と虹色の対応
…野村正雄
- ・平成30年度企画展報告
明治150年記念 洋学資料館所蔵資料から見た
文明開化と美作の医学
洋書が伝えた不思議な生き物
天を測り 地を量る
美作地域の華岡門人
- ・プレスケン号事件の発生から、
乗組員釈放までの期間における西吉兵衛蘇安
…土井康弘

3月末刊行 全94頁 500円

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料／

一般	65歳以上	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分